

Look Wide ～視野を広げて・・・ ～視野を広くし、垣根を越え、囲いを破っていく

■宗教界に向けられた問い＝社会的要請

朝の情報番組で『墓じまい』『離壇』等の悩みやトラブルの特集を視ました。単発予定だった特集は、視聴者からの反響が大きく、その後2回連続され、今後も継続される予定とのことでした。話題は、成仏・永代・供養・納骨とは？といった仏教的根拠にまで及び、そこに寺院・市民両者の近頃の社会的・経済的事情(思惑)が複雑に絡んで、寺との付き合い方に当惑する現代の世相が見えました。話し合われた疑問は、宗教界に向けられた問い＝社会的要請です。その要請に、果たして自分は真摯に向き合い応えてきたのだろうか、という自問が残ることになりました。

■失敗抑止の議論ではなく創意工夫の議論を！

さて、教区合併・新体制となり、コロナ蔓延のうちに第1期3年が過ぎ、第2期に入りました。その間にも社会は大きく変容し価値観が急激に変化する中、少子高齢化・人口減少・過疎化はもはや逃れられない眼前の現実となりました。またその背後にある、教化予算の更なる縮小懸念や、寺院の将来や経済的不安等、私たちの未来予想図が描き難い状況があります。そんなネガティブな空気が、寺院の運営護持や教化活動への意欲の低下、組織の弱体化等を静かに進行させてはいないでしょうか。コロナの蔓延は人間関係を微妙に変化させ、仏事や寺院との距離感を遠ざけた感があります。私たちを取り巻くこのようなネガティブな空気感、思考を後ろ向きにし、視野を狭くし、意欲を低下させるベクトルになっている気がします。このベクトルは、私たちの活動や組織を萎縮・硬直化させ、柔軟性や創意工夫を避け、大

胆な発想や新しく挑戦する気概を忘れさせてはいないでしょうか。私たちの進むべき道のほとんどが、安全で確実な道であるべきなのでしょう。しかしそればかりでは、新鮮さや望外の感動は見つかりにくいでしょう。卒なくこぢんまりとした冒険は、冒険と呼べないでしょうし、ドキドキする緊張感にも、人の心を捕まえる魅力にも欠けることでしょう。失敗や否定の議論を重ねるより、成功への創意工夫の議論を活発にしたいものです。小っちゃな一つの冒険(挑戦)から始めましょう。

■センター教化にあたり意識したいこと

①重点施策の三本柱を基軸として、各部会・各組との『協力・共働』による相乗効果を意識する。

②各組(特にセンターからの意思疎通が不十分だった反省にたち)との連携を意識し、『願われる教化』の摸索をする。

各組の教化体制・人員・環境等を想像し、各組との協力・共働を具体的に考え実行する。

③「そこに人がいる」(協力・共働の人を求めて)

教化事業に携わる立場としては、「できる」ようにするために、常に「やれる人」を集め、「やれる人」だけで、教化事業を「こなす」ことが多いかと思います。それだけでは発想が硬直化し柔軟性に乏しく魅力を失い、進歩や改革も止まるような気がします。人を、やれる人とそうでない人に、簡単に分けることはしてはならぬこととし、「やれる人」に育む努力も組織には必要かと考えます。そして実はその人との関わり合いの中で、教えられることも、確かめ合うこともできると思います。そのことを通して、事業が新鮮で魅力あ

るように、滞ることなく磨かれ続けていく気がします。過疎化や人口流出が進んでいるとはいえ、行く先、出会う先、そこには必ず人がいます。そのような人を見ようとせずに、通り過ぎてしまわないようにしたいものです。老若男女、僧俗そろって話し合いができれば、より素晴らしい輝きを出すよう磨かれていくことでしょう。やりたい人は、声をかけられる縁を待っておられるかもしれません。特に、日々営利優先の組織や数字・価値観に縛られている多くの人々にとって、価値観の違う世界との出会いは、きっと新鮮な驚きで、魅力的なはずで、寺に生まれた人には当たり前でも、そうでない人に異質で怪しげなものと感じさせているのは、私たちの側の「人を分けて見る」体質なのかもしれません。

④開教意識～ご門徒の向こうにおられるひとりの『同朋』を見失わない。

私たちの社会は、あらゆる面で多種多様な人々で構成されています。しかし私たちは、ご門徒とそれ以外の人々を分けて発想をしがちです。いなかの人々と共に交わりながら、相互に教え教えられ、共に確かめ合われた宗祖の生き様と、信念を磨いて下さり大切な気づきを促した人々を、同朋とかけ離れた宗祖の目線を見失わないように心がけたいものです。

「青少幼年教化」「帰敬式」「同朋唱和」の三本柱は、人と生まれ一仏教徒一真宗門徒と、人間らしく生き抜くことの節目を確かめる、人生を貫く『開教』となることを願う、僧俗共なる百年教化なのです。

センター企画会議 座長

益田組 永養寺 旭野 康裕



★センター・別院からのお知らせ★

高山別院院議会報告ー別院経常費増額について

さる10月16日、臨時院議会が開催され、提出された議案「別院経常費増額」〔門徒1戸：1,000円(内訳、従来経常費450円+今回増額550円)〕について審議の結果、賛成多数で可決されました。なお、審議中の組においては挙手を控えられましたが、反対ではない旨を述べられました。

賛成の根拠として次の三点が理解されたことです。

1. 顕在化した別院財政問題の抜本的見直しと、経常会計と特別会計の独立を図りつつ、特別会計は護持積立金に充てる。
2. 報恩講懇志ご依頼の趣旨等の再確認を徹底、各寺院間の不平等感を解消する。
3. 庫裡老朽化問題も視野に入れた中長期計画を策定し、適時、推移等を報告する。

別院経常費増額については、各ご寺院及び組門徒会の方々へは、御依頼状や年度初めの各組巡回等の席でご説明申し上げてまいりました。最終的には、各ご寺院・ご門徒のご理解によるところではありますが、総意としての賛意を受けて、各ご寺院の積極的なお取り扱いを重ねてお願い申し上げます。

改めて「センターだより」(来年3月号)にて、経過説明とお願いをいたす予定であります。

高山別院輪番 三島多聞

本山報恩講団体参拝の実施(帰敬式受式者を中心に)

帰敬式受式をご縁として、本山(東本願寺)報恩講への参拝をお勧めしております。各ご寺院住職からお声がけいただきますようお願いいたします。なお、受式者に限らず参拝希望の方はお申し込みいただけます。

参拝日 11月26日(日) 速夜法要への参拝
定員 20名 申し込み締め切り：11月3日(金)
参加費 ￥16,000- ※お申し込みは、高山教務支所(中川)まで。

岐阜別院報恩講団体参拝

このたび、岐阜別院報恩講への団体参拝を企画いたしましたので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

参拝日 12月10日(日) 結願速夜：法話/池田勇諦師
定員 30名 申し込み締め切り：11月24日(金) ※10名以下中止
参加費 ￥5,000- ※お申し込みは、高山教務支所(井野)まで。

ひだ御坊高山別院報恩講 11月1日(水)～3日(金)

多宝塔讚嘆法要 11月2日 日中法要 午前10時

寺族交流会座談会「同朋唱和の回復に向けて」② 座談Ⅰ 育成部会

(司会) それでは、ただ今の問題提起を受けて座談を進めます。私たちがどう同朋唱和を実施するのかということも大切ですが、同朋唱和とはどういうことなのかを今一度確かめながらどう実施するのか、そういった座談会にできたらと思います。

(お勤めが先か、法話が先か—歌を通して場を開く) ある在家のお宅の法要で、お話してからお勤めをするのと、お勤めをしてから法話をするのとどちらがいいか聞いたことがあります。答えは、お勤めが先がいいと言われる。それはなぜなのかと考えたら、お勤めによって心が同じ方向を向いて、そこで法話を聞くことが大事ということ。同朋唱和をすることによって、我々人間の団結を作っていくことになりす。

秦の始皇帝が国家を統一した時に何をしたかという歌を作った、国歌を作った。どの国でも国歌があります。学校では校歌、会社では社歌、同朋の会の歌まである。それは歌を通して場を開くということ。そういう意味では、聴聞の宗教であるならば、「正信偈」は場を作るということにおいて、何よりも大切なことではないかと思ひます。

(2人だけでも同朋唱和) 同朋唱和はいろんな形があってよいのでは。大人数で何人も一緒にすれば同朋唱和で、住職と門徒さんと2人だけでは、同朋唱和ではないということはない。どちらかという、今だと少人数の方がはたらきかけやすいのでは。

(「道俗時衆共同心」) 通夜、葬儀はきっかけ。枕経に行く時、赤本を10冊くらい持っていき、お家の方と一緒に「嘆仏偈」と「正信偈」をお勤めしています。お通夜の前に、「正信偈」の最後の語句から、僧侶だけが勤めるものではないと話をすることがあります。「道俗時衆共同心…(共に同心に、ただこの高僧の説を信ずべし)」の話をして、ここに一緒にお勤めすると書いてあるよと、だから「一緒にお勤めしましょうね」と伝えてお通夜に向かいます。お通夜がゴールとは思っていないで、先ずきっかけに

してもらって、地道に馴染んでいくのがよいと思っています。皆さんも実感があると思いますが、例えば、亡くなられたおばあちゃんが「正信偈」をお勤めされていた方の場合、遺族の皆さんも「正信偈」のお勤めをされませんか。そういう実感があります。

(夏休みの同朋唱和) 今夏休みに、本堂でお勤めする時に同朋唱和をします。お寺を会場にラジオ体操をするので、本堂を開けておいてラジオ体操の後に行きます。子どもが少ないから年寄りが多いけど。私たちが行かなくても年寄りが5~6人、子どもも5~6人くらい来ます。宗派は関係なく親子でも来られます。私の子どもの頃、父がずっと日曜学校をやっていました。

(同朋ということが私たちは分かっていない) 先ほど遅れて来た人に席の輪に入ってほしいと言ったことについて、お勤めの練習会の時に門徒さんは本を持って一生懸命聞いているのに、そこに来ている住職や寺族たちが、お勤めの本を持ってきてない。やっぱり他人事なのです。同朋ということが私たちは分かっていない。そういう意味で、今日このように輪になっている。このようなスタンスを私たちはなかなか持てていないのではないかと思う。周りで様子を見るような人が必要かもしれませんが、練習会の時にも聞法会の時にも、何か特別席に座るような立場の人たちが、果たして同朋唱和なんてできるのかどうか。

(同朋唱和とあえて言わなければならなくなった) そもそも同朋唱和と言われなくても門徒さんは「正信偈」を読めた。御遠忌の時の同朋唱和の取り組みで感じましたが、今は「同朋唱和とあえて言わなければならなくなった」ということ。一緒に「正信偈」をお勤めしようと言わないと、なかなかその機会が無くなってきました。昔は各お内仏でお参りがあり、爺ちゃん婆ちゃんから子どもに伝わっていたものが、そういうわけにはいかなかった。お通夜なり法事の場合を大切にしていこうという中で、一緒に「正信偈」を読もうということが

あるんだと改めて感じます。お勤めの練習会だけでなく、家族でお参りがある時にお参りに行った先で、「お勤めしましょう」と、私たちがどうやって声掛けができるのか。同朋唱和の回復の最初の一步ではないかと思ひます。

今年からラジオ体操の後のお参りを復活しましたが、コロナ前よりも人数は減りました。「帰命無量寿如来」は君ね、「善導独明」は君ね、初重は誰々、二重は誰々と当てて、皆で「願以此功德」まで唱和します。初めての子どもでも一週間くらいでお勤めができるようになります。そういう小さな場であっても作っていくことが大切だと改めて感じます。そういうことから、お通夜と一緒に勤めができるようになっていくのではないかと思ひます。葬儀屋さんの意向でお通夜や葬儀は難しいとありましたが、お参りの人が皆、「正信偈」の本を自分で持って行けば、多分、葬儀屋さんが何も言わなくても「正信偈」を一緒に読まれると思ひます。

(分かつが分らないが、先ずはお勤めをする) 3年ぶりにお寺の子ども同朋の会を開きました。その案内を、6月の御遠忌法要の稚児応募者の60人ほどの方にしました。今まで子ども同朋の会に来ていた地元の子もたちが来てくれるものだと思ひましたが、お母さんと4才と1才の1組だけでした。その家族はお勤めするのが初めてでした。その方たちにしてみればちんぷんかんぷんなのですね。「慣れる」ということだと思います。心得があろうが無かろうが、しっかりと「正信偈」をお勤めする場に同席することがまず大事。その後その人たちがどう向うかです。藤場先生が、真実の浄土と穢土に境があると話されました。その唯一の境を破るのが声明だと言われたと思ひます。なるほど、唱和する人が多かろうが少なかろうが、分かつが分らないが、今は分らないでも将来必ずわかるだろうと、「正信偈」をお勤めするというのが大事ではないかと思ひます。

※ 座談会内容は、3回にわたって掲載いたします。
 ※ 要約編集はセンター事務局で行いました。

飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』11月

三島 大遵氏 (高山1組真蓮寺住職)
小原 正憲氏 (高山1組専念寺住職)



WEB 一口法話はこちら

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

真宗公開講座—第1・2回ご案内

第1回 11月1日(水) 19:00~ 真宗同朋会主催
 説法漫才「もっとお寺を身近に 和顔愛語」 えしんりょう (中村亮氏・土井恵信氏)

第2回 12月4日(月) 14:00~ 真宗同朋会主催
 「帰敬式 仏弟子になること」 相馬 豊氏 (金沢教区道因寺・修練道場長)

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年11月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場			
1	水		別 報恩講 第1回真宗公開講座 (19:00~)	本堂他	18	土						
2	木		別 報恩講 御伝鈔の夕べ (18:30~)	本堂他	19	日						
3	金	9:30	別 報恩講 セ 帰敬式執行	本堂他 本堂	20	月						
4	土	7:00	別 お浚え勤行	本堂	21	火		真宗本廟 御正忌報恩講 (11月28日まで)	真宗本廟			
5	日	11:00	セ 子ども報恩講・書道展表彰式	本堂	22	水						
6	月				23	木						
7	火	13:30	セ 青少幼年部会	ミーティングルーム	24	金	19:00	別 寺内報恩講	御坊会館			
8	水				25	土						
9	木				26	日	7:00	別 半日華 セ 帰敬式受式者本山団体参拝	真宗本廟			
10	金	15:00	セ 帰敬式推進室	ミーティングルーム	27	月	13:00	別 親鸞聖人御遠夜	本堂			
11	土	7:00 13:00	別 半日華 別 大谷婦人会報恩講 法話:三島多聞氏(輪番)	本堂	28	火	13:00 19:00	別 親鸞聖人御命日 法話:春國文春氏(玄興寺住職) 教 教化研究所	本堂 研修室			
12	日				29	水	19:00	組 2組帰敬式法座	御坊会館			
13	月	7:00	別 前住上人ご命日	本堂	30	木	15:30	組 1組末日会	研修室			
14	火				2023年12月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。							
15	水	15:00	教 教区教化委員会	教務所	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
16	木	14:00	教 査察委員講習	教務支所	3	日	14:00	組 益田組帰敬式法座	4	月	14:00	セ 第2回 真宗公開講座
17	金	19:00	組 荘白川組浄念寺親鸞教室①		5	火	13:30	セ 青少幼年部会	6	水	13:30	教 高山地区解放協議会輪読会
					7	木	18:00	セ 帰敬式推進室反省会	10	日	終日	教 岐阜別院報恩講団体参拝